

◆平成23年度 増富小学校校内研究の概要

I 研究主題 **たくましく 心豊かな児童の育成**

～ 学校やふるさとを愛する心を育む生活科・総合的な学習の時間の実践を通して ～



II 主題設定の理由〈要点〉

■学習指導要領の理念の実践化として

学習指導要領では、「生きる力」のさらなる育成が強調され、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的基本的な知識技能の習得とともに、これらを活用して課題解決のため必要な「思考力・判断力・表現力」を育成すること、主体的に学習に取り組む態度の育成が求められている。また、その際児童の発達段階に考慮して児童の言語活動を充実させることも重要な手立てとして示されている。

本校の研究は、「課題を持ち、追究し、深く考え、的確にまとめ、表現する」というプロセスの中に「読む・書く・伝え合う」といった言語活動を充実させながら指導要領が目指している目標を達成させるための取り組みである。

■学校の教育目標の具現化として

『自ら学び、郷土を愛する心豊かな人間の育成』という教育目標を達成させるためには、豊かな自然体験や社会体験活動を充実させることが重要である。そのために、生活科や総合的な学習の時間の実践に焦点をあてて取り組んでいく。生涯にわたって学校や郷土に愛着と誇りを持ち続けられる心豊かな人間性の育成に焦点をあてた研究である。

■学校の統廃合という特別な一年として

24年間の学校の歴史に幕を閉じる一年であり、この区切りの一年が児童一人一人にとって思い出多い実りある学校生活になることを願うものである。学校や地域の歴史・伝統・文化のすばらしさを再確認し、これらに対する自分たちの思い・願いを新たにしたい。そしてその取り組みの成果を2月に予定されている「閉校式」や「閉校記念誌」の場で胸を張って、地域住民・保護者に発信することのできる児童の育成を目指している。

III 研究の目標

本校児童5名全員が、希望に溢れ、誇りと自信をもって須玉小（須玉中）でのスタートの日を迎えるために、その精神的な土台となるであろう「母校やふるさとへのさらなる愛情（愛着）」を生活科及び総合的な学習の時間の実践を通して育んでいく。そして、その取り組みの成果として最終的なゴールとなる「閉校式」の場において、一年間の学習の成果を地域住民・保護者・同窓生に対して堂々と発信することのできる児童の育成を目的とする。

IV 研究の仮説

生活科や総合的な学習の時間の学習過程において、単なる「調べる→写す→発表する」といった表面的な学習でなく、ものの見方・考え方・生き方をじっくり考えさせる学習、豊かな表現力を培うための学習を工夫・充実させることにより、学校やふるさとへのさらなる理解と愛情をもつ児童の育成が期待できるであろう。

V 研究の内容

①課題をもち、学校やふるさとを様々な角度から調べる学習をどのように工夫・充実させるか。

〈自分のこれまでの学校生活・地域の歴史・伝統・文化・人・風習など〉

重点事項 ②調べたことに対する自分なりの見方・考え方・生き方を深める学習をどのように工夫・充実させるか。〈話し合う・書く〉

③工夫して視覚的に効果的にまとめる学習をどのように工夫・充実させるか。

〈ポートフォリオからパワーポイント資料へ〉

④相手によく伝わるために、よりよい表現力を磨く学習をどのように工夫・充実させるか。

〈文章表現・表情・声・まなざし・態度〉